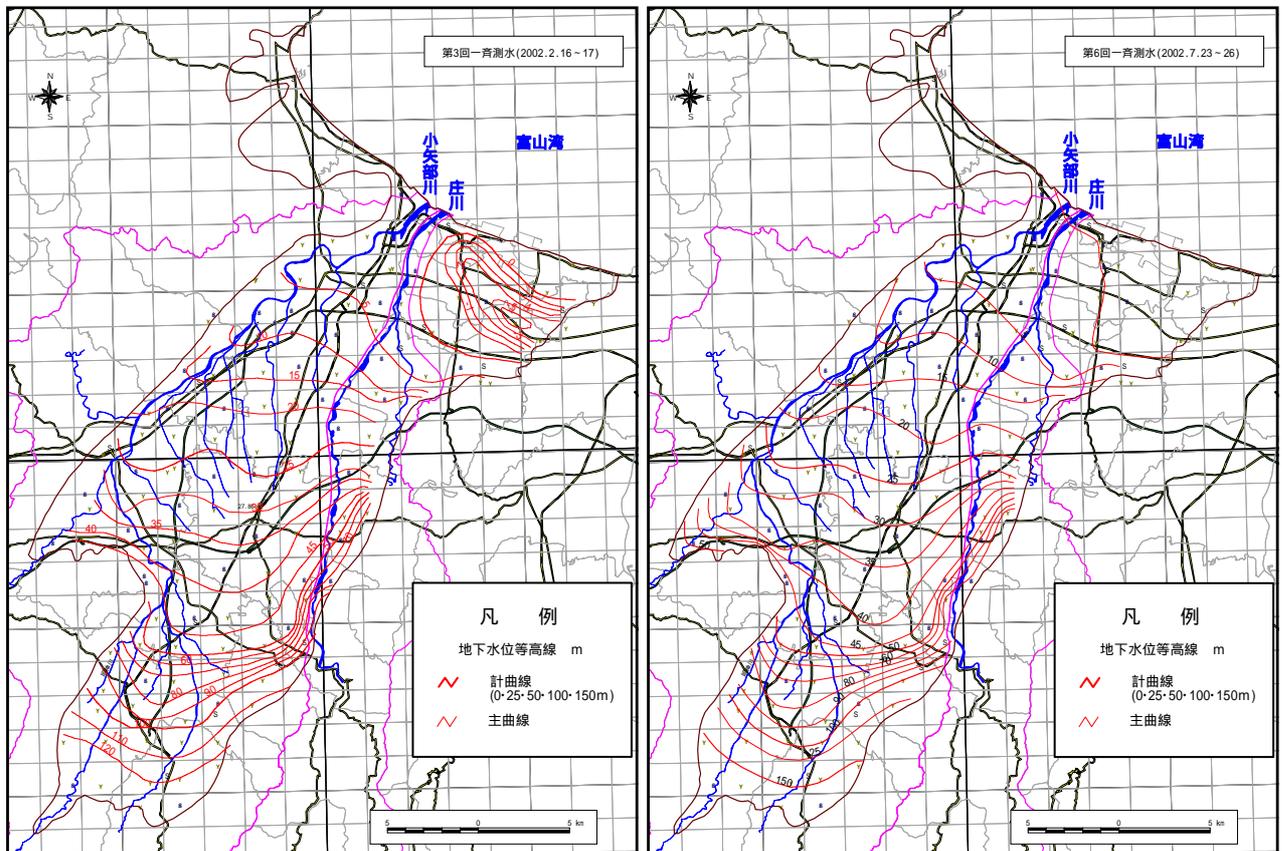


## 地下水ポテンシャルの平面分布

庄川扇状地の地下水の流れは、大局的に南東から北西の小矢部川に向かっており、小矢部川が流出域になっている。特に雄神橋付近から砺波大橋付近にかけての左岸側では常に等高線の間隔が密になっており、庄川から扇状地への地下水補給（河川水の伏没）が盛んなことが窺える。

一方、中田橋付近から下流の大門橋付近にかけての右岸側では、庄川へ流出する形態の地下水位分布を示している（図 2-5、P32 図 2-17 参照）。

また、庄川扇状地域の地下水は降水・水田灌漑・融雪・揚水等の地下水に対する様々なインパクトによって、地域毎に特徴的な季節変動を示す。特に庄川扇状地域の地下水は水田からの地下浸透の影響を大きく受けており、一方沿岸部の射水低地では地下水揚水量の多寡に応じた変動が顕著である（図 2-6 参照）。

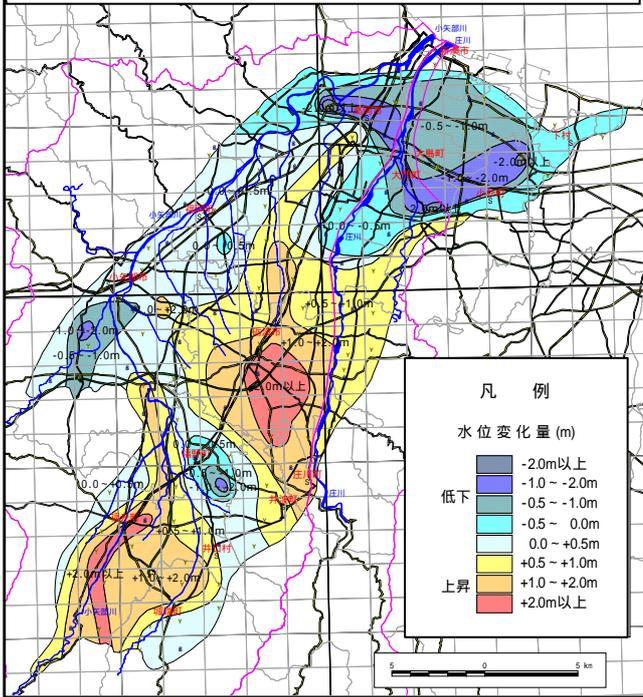


冬期（平成 14 年 2 月）

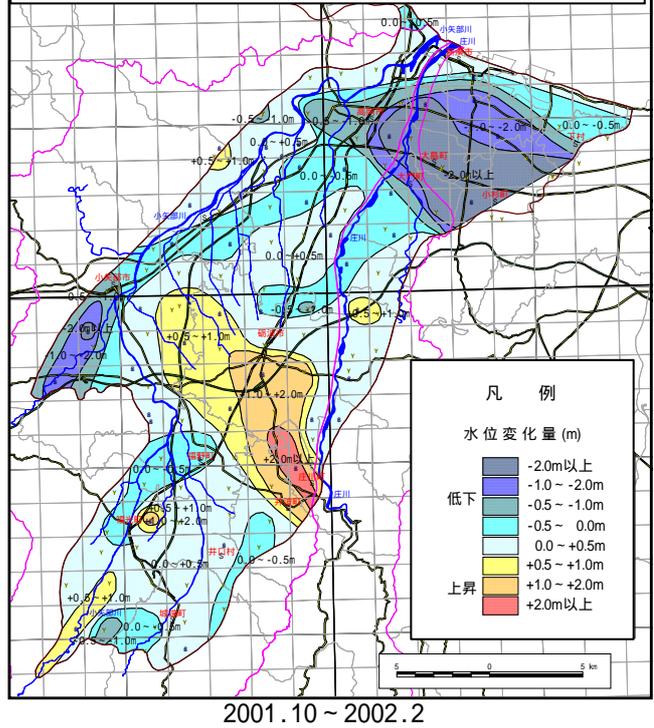
灌漑期（平成 14 年 7 月）

図 2-5 地下水位等高線図

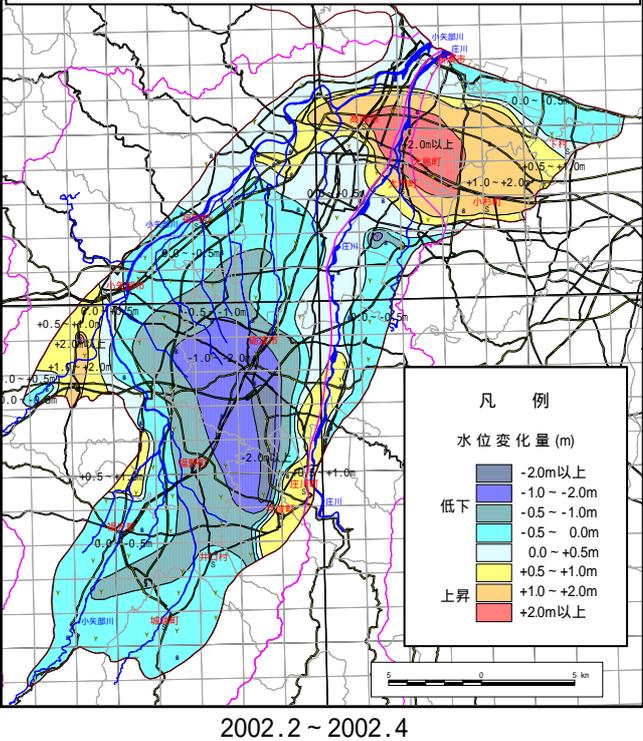
暖冬による融雪水の地下浸透により扇状地ほぼ全域で水位上昇．射水低地では消雪揚水の影響により水位低下域を形成



扇状地域では暖冬による融雪の影響により水位上昇を示すが、影響範囲は左図と比べやや減少．射水低地の水位低下域は拡大傾向



融雪水の影響が消失したことにより扇状地のほぼ全域で水位低下．一方、射水低地では消雪揚水の停止に伴い水位は上昇



代掻きに伴う水田からの地下浸透により扇状地全域で顕著な水位上昇

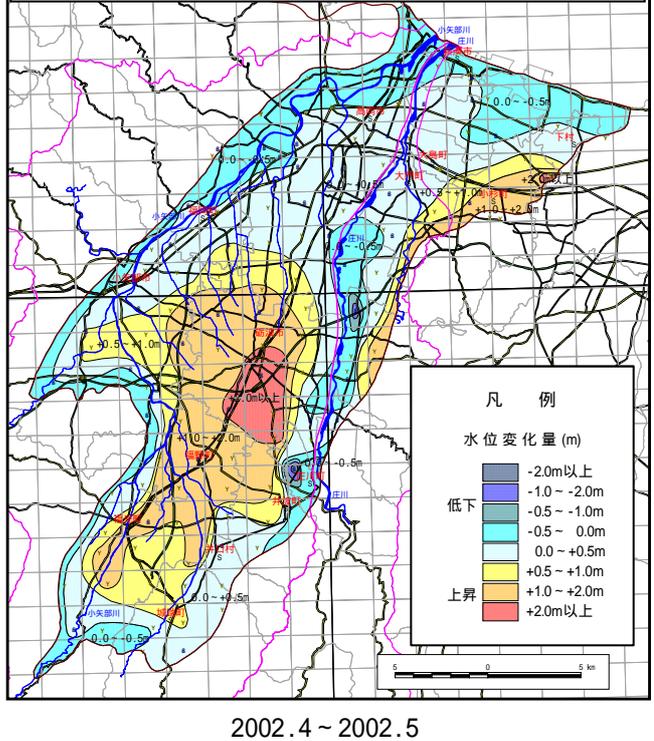
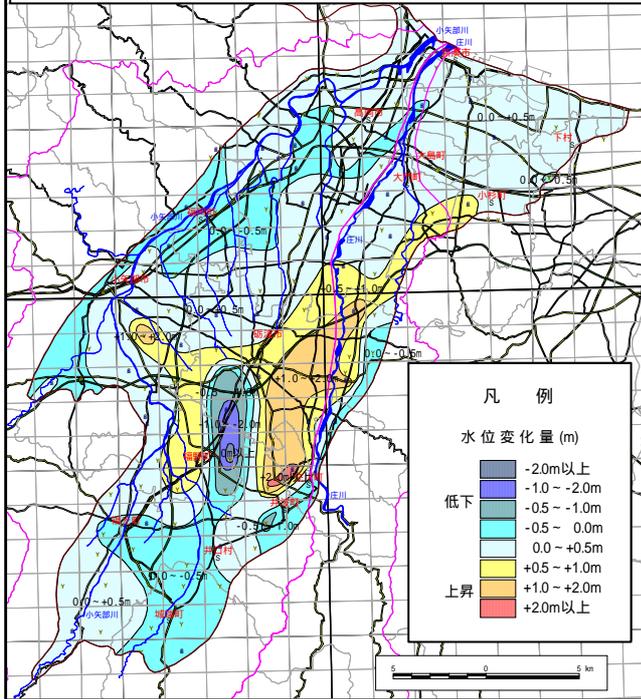


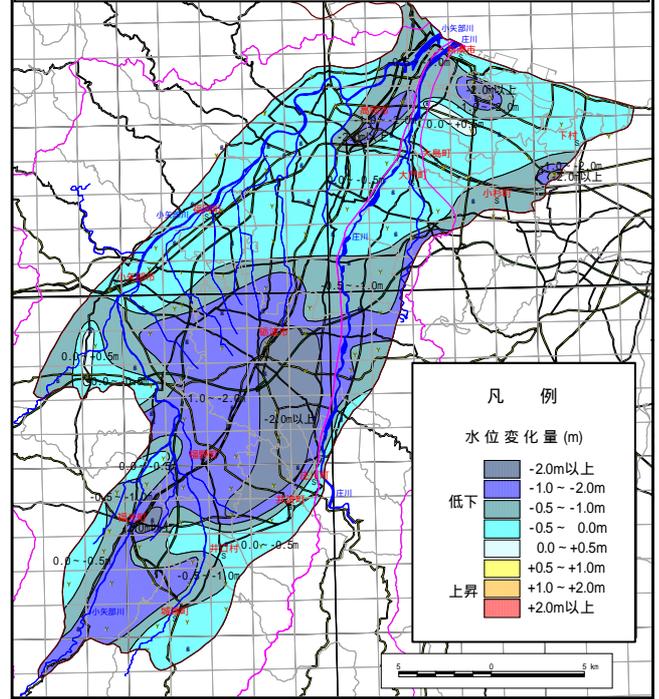
図 2-6 (1) 地下水位の季節変化

灌漑期間中の水位変動は比較的小さく、夏期の集中的な降雨により扇頂部付近で水位上昇



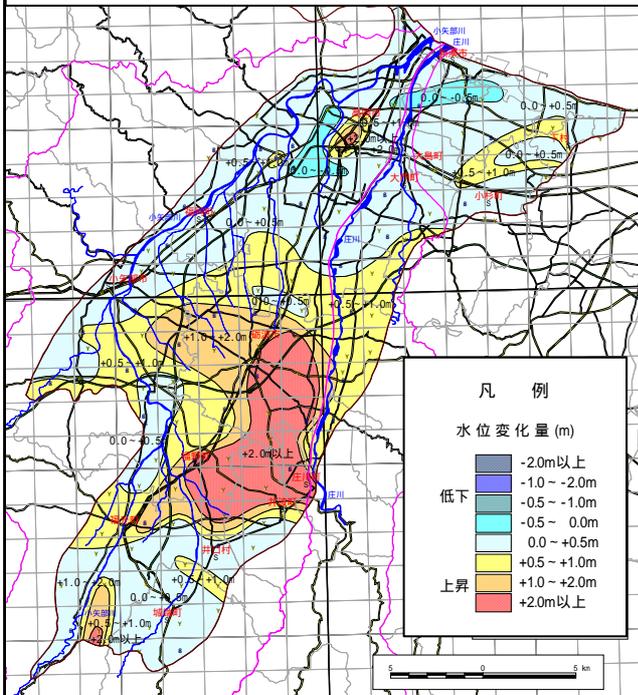
2002.5 ~ 2002.7

非灌漑期になると扇状地のほぼ全域で水位は低下傾向



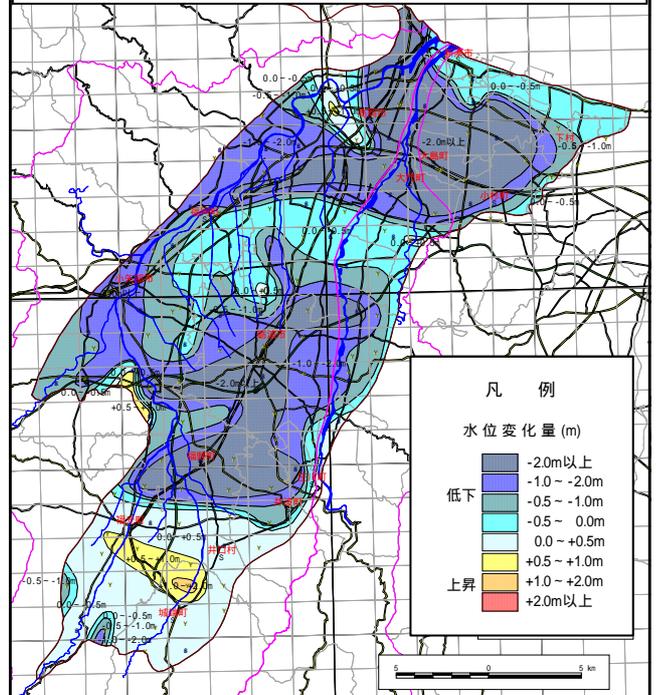
2002.7 ~ 2002.9

11 月時の集中的な降雨により扇状地 ~ 射水低地の全域で水位は上昇



2002.9 ~ 2002.11

集中的な降雨を被った 11 月時の水位(左図)に対して扇状地の水位は相対的に低下・射水低地では消雪揚水の影響により水位低下



2002.11 ~ 2003.1

図 2-6 (2) 地下水位の季節変化